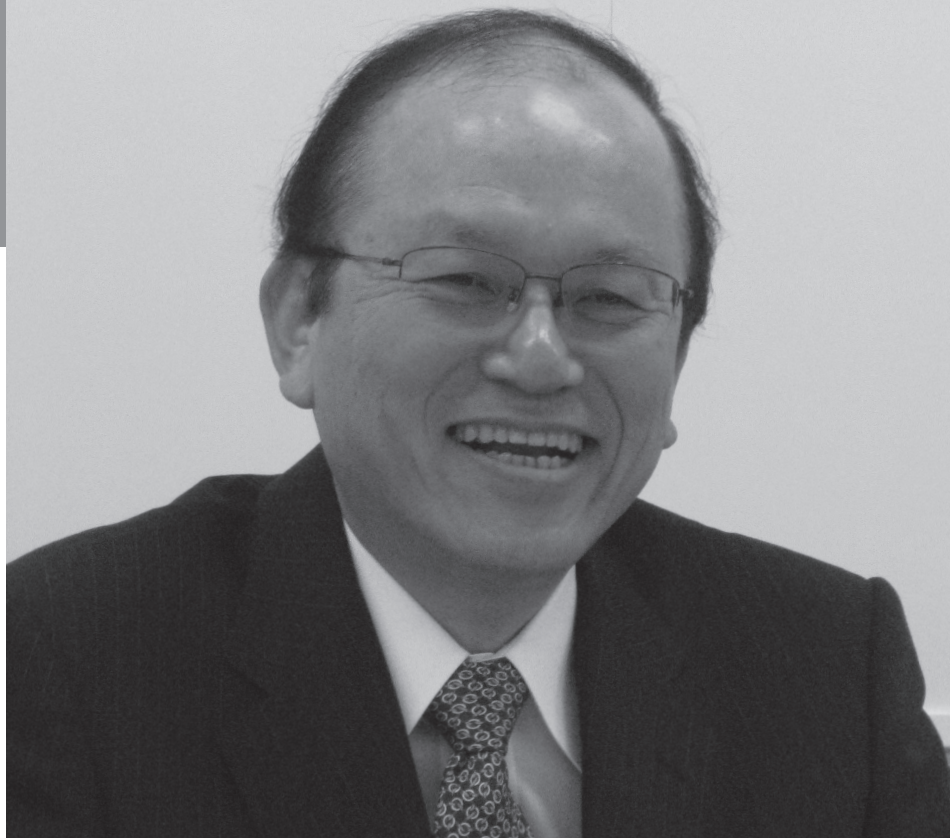


INTERVIEW

公益社団法人地域医療振興協会
西日本事務局担当常務理事

白崎信二先生



【プロフィール】 白崎信二先生 1979年自治医科大学卒業(福井県出身)。福井県立病院で初期研修後、町立三国病院、福井県済生会病院、名田庄診療所、町立織田病院、福井県立病院に勤務。義務年限終了後、社会保険高浜病院へ外科医として赴任。1993年より福井県立病院外科に勤務。2000年公立丹南病院 病院長に着任、2012年より公立丹南病院 管理者を務める(2013年5月末日まで)。2013年5月より地域医療振興協会 西日本事務局担当常務理事に就任。

今、与えられたその場で、 ベストを尽くす。

聞き手：山田隆司 公益社団法人地域医療振興協会 地域医療研究所所長

田舎の診療所での大きな学び

山田隆司(聞き手) このたび、地域医療振興協会西日本事務局が京都にオープンしました。その担当常務理事に公立丹南病院の白崎信二先生が就任されましたので、今日はお話を伺いたいと思い、京都の事務所を訪ねました。

まずは先生の経歴から紹介していただけますか。

白崎信二 私は昭和54年卒の自治医科大学の2期生です。卒業してから福井県立病院で2年間スーパーローテートの初期研修を受けました。外科をやりたいと思っていたので、2年目は外科系の診療科を中心に回りました。3、4年目は現坂井市にある町立三国病院という100床程度の病院の外科に行きましたが、そこは常勤の整形外科医がいなかつ

たので整形外科もやりながらの外科でした。

山田 外科研修ということで行かれたのですか。

白崎 地域派遣です。

山田 医者は何人くらいいたのですか。

白崎 外科が3人で、全体で8人程度でした。考えてみれば今の三国病院の方が少ないくらいで結構恵まれていましたね。

そこでは整形外科だけでなく緊急応援的に耳鼻科の外来も担当したり、いろいろなことをしました。

山田 内科を除くいわゆる外科的処置をいろいろやったわけですね。三国町というのは、当時人口はどのくらいだったのですか。

白崎 確か2万人くらいだったと思います。福井市に近いので、住民はかかる医療機関に困っているという状況ではなかったですね。

5年目には福井県済生会病院の外科に後期研修という形で1年間行きました。消化器外科を半年、胸部外科を半年の研修でした。忙しくて大変でしたが本当にいろいろな経験をして非常によかったですね。

山田 外科の研修をしたのはそこで初めてだったのですか。

白崎 後期研修はそこが初めてです。

それから名田庄診療所へ行って2年いました。その2年間というのはそれからの自分の医師人生の中での大きな礎というか…患者さんの診察の仕方や家族背景があるという意識の重要性などをそこで経験しました。

山田 一転して手術室に入らなくなったというのは、外科医を目指す上でストレスになりませんでしたか。

白崎 確かに外科医としては2年間ブランクになるわけなのでストレスはありましたが、週1回は県立病院へ研修に行って手術の手伝いをしていたので、外科を捨てるといった悲壮感はありません

でしたね。

山田 名田庄のどんなところがよかったのですか。

白崎 診療所では患者さんだけではなくその背景が見えます。お母さんがいてお祖母ちゃんがいてという。それから継続性ですね。自分が外来で診たあともフォローできます。また往診に行くと、患者さんが自宅でどういう状態で生活しているのか、ただ診察室で待っているだけでは分からないようなことに気付かされました。診療所へ行った自治医大卒業生はみんな同じようなことを言いますが、それからの28年の医師人生の原点というか、医師のあるべき姿というようなものを経験しました。

山田 特に若いうちにそういうふうさらされるのがいいのかも知れませんが。

白崎 そうですね。若いうちに行った方が新鮮で、すり込みも強いと思います。

山田 当時の名田庄村はどのくらいの人口でしたか。診療所は今の複合施設ができる前の古い建物だったのですよね。

白崎 そうです。新しくなったのは今の中村伸一先生が行かれてからですね。あのころは人口3,000人ほどの村で、診療所は出張診療所があったので1.5という感じでしたが、外来患者は1日30～50人でした。

山田 結構忙しいですね。

白崎 そうですね。往診もありましたし、もちろん胃カメラやエコーなどもやりましたし、骨折のギブスを巻いたり、いろいろなことに対応しました。結構失敗もしましたが(笑)、へき地の診療所で若い医師が失敗しても患者さんは許してくれるのですよね。一所懸命やっているという態度を示すと、患者さんも「まあまあ」と言って許してくれる。

山田 結果というのはなかなか予想どおりに行かないこともあって、それはそれで仕方がないことですが、医師が身近にいて親身になってくれている